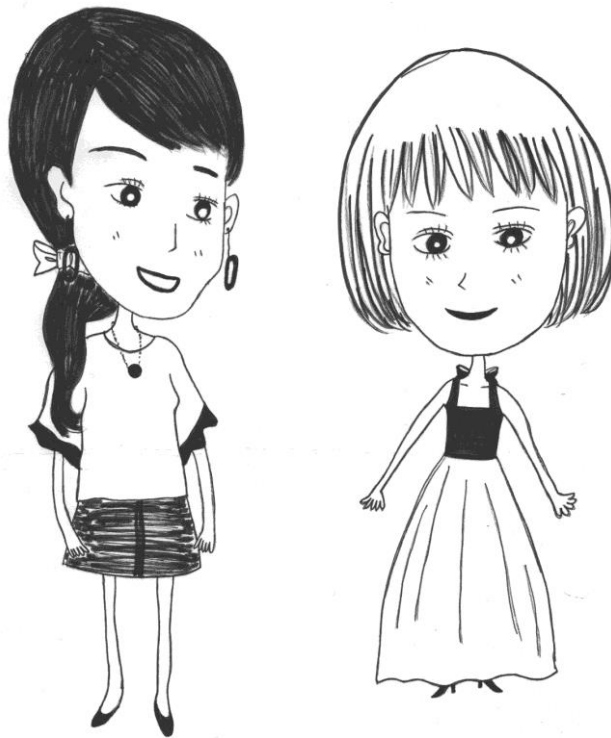


自信がなくても自分らしくできる

ピアノ講師1年生のための はんなり流☆ ピアノの教え方

第3章 レッスン2回目の内容



スカラー

■はじめに

この章では、2回目のレッスンの指導内容に絞って作りました。

体験レッスン、初日のレッスンを経験し、子どもにピアノを教えるって大変だなあ〜と痛感されているときかもしれません。

難しいと感じながらも、1回1回経験を積むしかないのがんばっていきましょう！

2回目のレッスンは、基本的には初日のレッスンと大きく変わることはありません。

①一度にたくさん言わない②子ども“できた感”を持ってもらう③先生と生徒の立場をはっきりさせる、を常に頭に入れておきましょう。

先生は言いたいことが山のようにあるのですが、今はグッとこらえて必要最小限のことだけ言うように心がけましょう(^_^;)。

また難しいことはやらせずに、あくまでその子ができることをレッスンしていきますよ。

では、実践に移っていきましょう(^o^)/

■ 目次

■はじめに	2
■目次	3
■レッスン2回目のスケジュールはこちら.....	4
■ Part1 ピアノの弾き方指導実践その②	5
必要な教材	5
宿題チェック	6
1曲を合格させる基準は?	8
実際の進め方	9
■ Part2 音符の読み方指導実践その②.....	12
必要な道具	12
実際の進め方	13
仕上げは「音符カード」でチェック!	15
■ Part3 リズムのたたき方指導実践その②.....	17
必要な道具	17
実際の進め方	18
参考動画.....	24
■おわりに.....	25
■規約	26

■ レッスン2回目のスケジュールはこちら

前回、第2章の「レッスン初日の内容」はわかっていたでしょうか？

次はレッスン2回目の内容に入っていきますよ。

●40分レッスン

※40分レッスンですが、レッスンノートへの記入や雑談をしたりする時間もあるので、レッスン時間は正味35分です。

項目	時間
①ピアノを弾く 宿題チェックと新曲の説明	15分
②音符を読む 「ドレミファソ」まで教える	10分
③リズムをたたく 拍数&全音符の説明	10分

2回目のレッスンでは、音符を「ドレミファソ」まで教えることと、リズムの拍数と全音符の説明をしていきます。

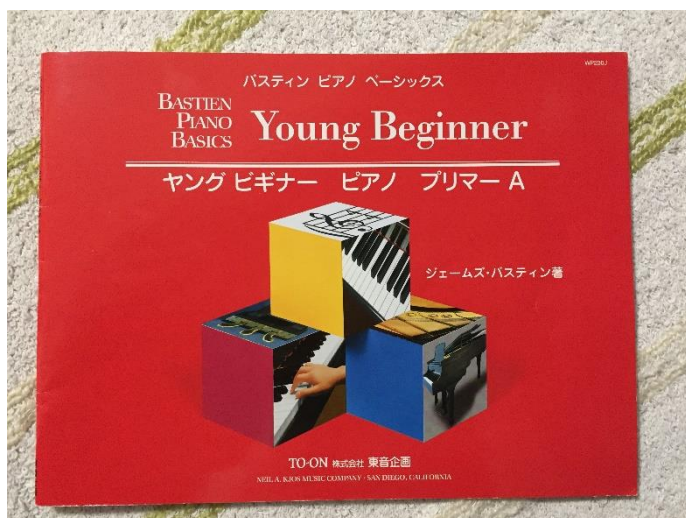
Part1 ピアノの弾き方指導実践その②

この章では、あくまで2回目のレッスン内容だけにフォーカスしてお伝えしていきますね。
まずは「ピアノを弾く 15分」のレッスン内容です。


2回目のレッスンでは、メインは宿題チェックで、残りの時間で次の宿題のポイントをじっくり伝えていきますよ。また「ドレミファソ」まで弾いていきます。

必要な教材

「バスティン プリマーA」



p11「かえる」



★れんしゅつのはかたは 10ページをみましょう。

Jumping Frogs P.14へ(これはも同様)

かえる

あぎて 見.見.	ど 1	れ 2	み 3	み 3	れ 2	ど 1	ど 1	れ 2	み 3	れ 2	ど 1	ど 1	ど 1	
See	the	frogs	play - ing	there.	Frogs	are	jump - ing	ev - ry	where!					wpsau
と	ん	でー	あ	せ	がー	な	か	よ	し	か	え	るー		

●子どもへの説明の仕方

・「お家でちゃんと練習できたかな？ じゃあこの曲も、①音の名前を言いながら弾く②リズムを言いながら弾く③歌いながら弾く、の順番で弾いてみようね」と3段階に分けて弾いてもらいます。

・「音の長さがきっちりと数えられたね！ よくできました」と合格させます。

宿題チェックが終わったら、次の曲には進まずに p14 に進みます。

(※左手で弾く曲は飛ばして、まずは右手5本の指の練習から始めます)

1 曲を合格させる基準は？

ここで、読者さんからの質問が多い、「1 曲を合格させる基準」についてお伝えしたいと思
います。

合格ラインをどこにするかは教える側の永遠の課題かもしれません。スカラーも教え始め
たときはどこを基準にするかとても悩みました。ですが、いろんな子どもを見てきた結果、
合格の基準というのは、**子どものレベルによって変えても良い**というこ
とです。

例えば、まだ習って数カ月の子どもの場合と、音符、鍵盤、指使いを考えて弾くだけで精一杯
なんですね。なので、そんな状態なのに、音をなめらかに弾くとか、指のタッチのこととか、
強弱をつけて弾くとか、そういう細かいニュアンスまで伝えることは難しいです。

なので、導入時であれば、たとえたどたどしい指の形であっても、そこは触れないで、音の
高さや長さや指使いが合っていたら合格にしています。逆に、正しい音を弾いていても3拍
伸ばさないといけないのに2拍しか伸ばせないとかは、きっちり注意した方がいいです。

つまり、**「音の高さ、音の長さ、指使い」**、これが導入期における合格の基
準の最低ラインだと考えています。

で、1 回でスラスラ弾けちゃう子どもの場合も基本的には同じで、「音の高さ、音の長さ、
指使い」が合っているようなら、あまり細かいことを言わずにどんどんテキストを進め
た方が子どものやる気が続いて良いです！で、余裕があるなら、「左手の音だけ小さくでき
る？」とか、「ここから少しずつ音を大きくして弾いてみよう」とか「最後は静かに終わろ
うね」などということをお伝えしたら良いと思います。

実際の進め方

p14「ぶらんこで」。ここから「ドレミファソ」まで音が増えます（指を5本使いますが、難しくありません）。※まだ右手しか使わないですよ。



「バスティン」のすごいところは、レッスン2回目にしてもう5本の指をすべて使わせるところなんですね。普通なら「ドレミ」の3本の指しか使わないのですが、この本は5線譜がないので、子どもたちは楽譜に書いてある指番号、もしくはドレミファソの文字を見ながら鍵盤を押すことができます。

●子どもへの説明の仕方

・「まずは、音の名前を言いながら弾いてみようね。ドレミファ ソソソー・・・」と弾かせます。

・「上手にできたね。じゃあ次は、リズムを言いながら弾いてみようね。リズムの言い方覚えているかな？ ターターターター ターターターアン・・・」とやらせます。

・「上手にできたね。最後に歌いながら弾いてみようね。あがれよ たかく・・・」と、歌詞を歌いながら弾かせます。

*** 指導のポイント ***

初日のレッスンで手のことを伝えてあるので、2回目のレッスンできれいな手で弾けていたら、「ふわっとしたきれいな手で弾けているね」とほめてあげたら良いし、ベタ弾きになっていたら、「ふわっとした手で弾くにはどうしたらよかったけ？」という風に子どもに考えさせてください。

また、リズムで弾いてもらうときに、白丸の音符＝ターアンは、**2拍伸ばす**ことを伝え、楽譜に2拍伸ばすことを書いてあげてください。

あと、

- ① 音の名前を言いながら弾く
- ② リズムを言いながら弾く
- ③ 歌いながら弾く

の3種類を弾いてもらうことが反復練習になるのでぜひやってください。

このやり方、実は子どもにとって少々難しいのですが、しゃべりながら弾くことによって、音符が早く覚えられるし、リズムもきっちりに頭に入るので省かずにやらせましょう。

※楽譜に書かれている「C D E F G」のアルファベットの説明はまだしません（レッスンを開始して1カ月ほど経ってからが良いと思います。まずは、音符をきっちり覚えてもらうことが優先です）。

宿題の出し方 ※具体的な出し方は第2章を参照

今回のレッスンで弾いたp14「ぶらんこで」の復習と、新たにp15「メリーさんのひつじ」を宿題に出します。メリーさんのひつじでは、新しく全音符が出てくるのでレッスン中に説明をします。



「(棒のついていない) 白丸は4拍伸ばすんだよ。リズムの言い方は、ターアーアーアんだよ」と伝え、楽譜に4拍伸ばすことを書いてあげましょう。

子どもへは「p14 はとまらずにスラスラ弾けるようにお家で練習してきてね。新しく p15 を宿題に出すね。聞いたことがある曲だね。お家での練習はオレンジ色の部分【れんしゅうのしかた】の順番でやってきてね。音符の長さ気をつけて弾くんだよ」と伝えます。

.....

p15 まで進めたら、次へは進まず p12 に戻って左手の練習を始めていきましょう(^-^)

(※左手の練習は第4章でお伝えしますね)

これで2回目のピアノの教え方は終わりです。

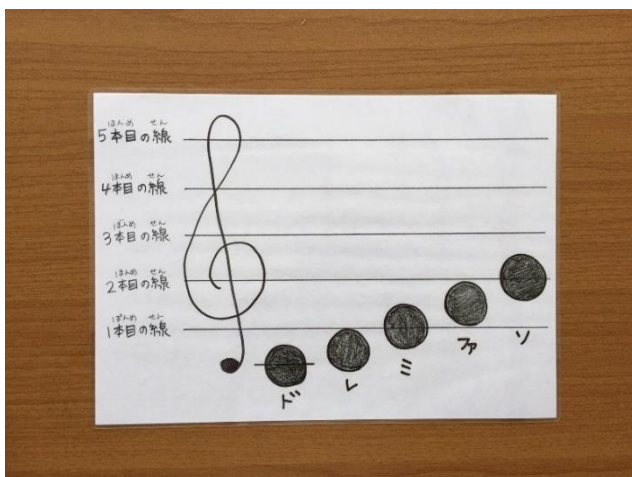
Part2 音符の読み方指導実践その②

レッスン2回目では、新たに「ファ」と「ソ」の音を教えていきます。

音が増えると混乱する子どもが出てくるので注意深く教えていきましょう。

では、「音符を読む10分」のレッスン内容を解説していきます。

必要な道具



・ト音記号「ドレミファソ」を書いた紙

音符はできるだけ大きく書いてあげると子どもは見やすいようです（‘ω’）

※左のような事前に用意した紙でも良いし、何も書いていない紙に子どもの目の前で音符を書いてあげる方法でも良いと思います



・「ポケモン おんぷカード」

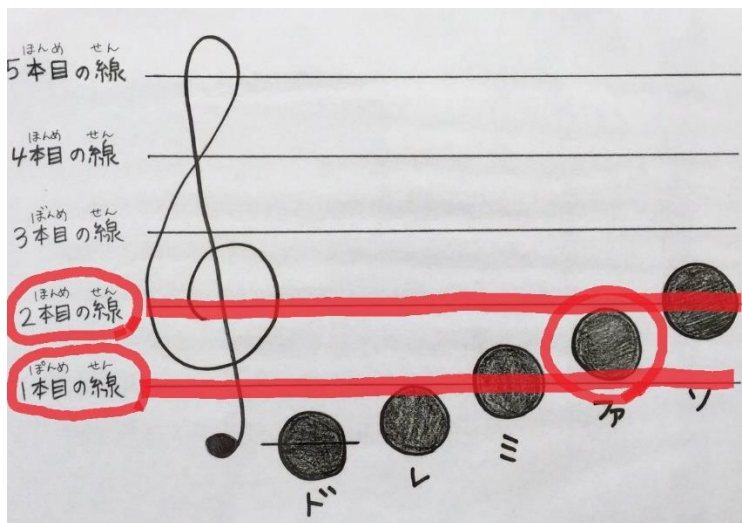
音符を教えるときに必須です

実際の進め方

「ファ」の説明

●子どもへの説明の仕方

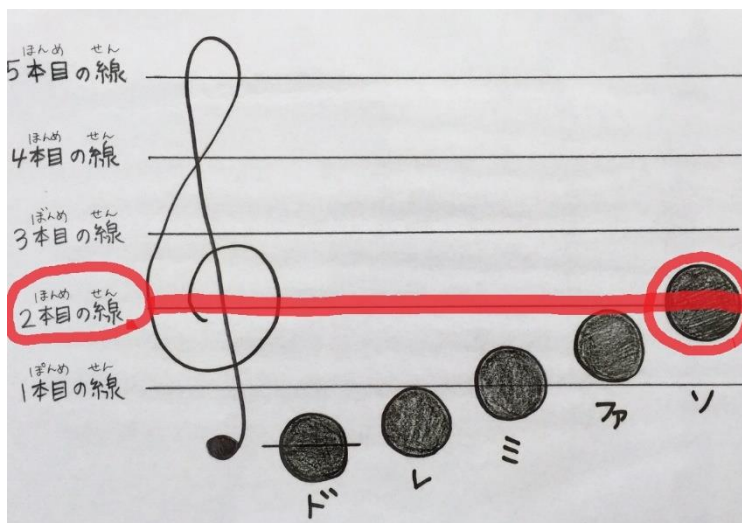
「今日は新しくファの音を覚えようね。ファは1本目と2本目の線の間にある音だよ」と言います。



「ソ」の説明

●子どもへの説明の仕方

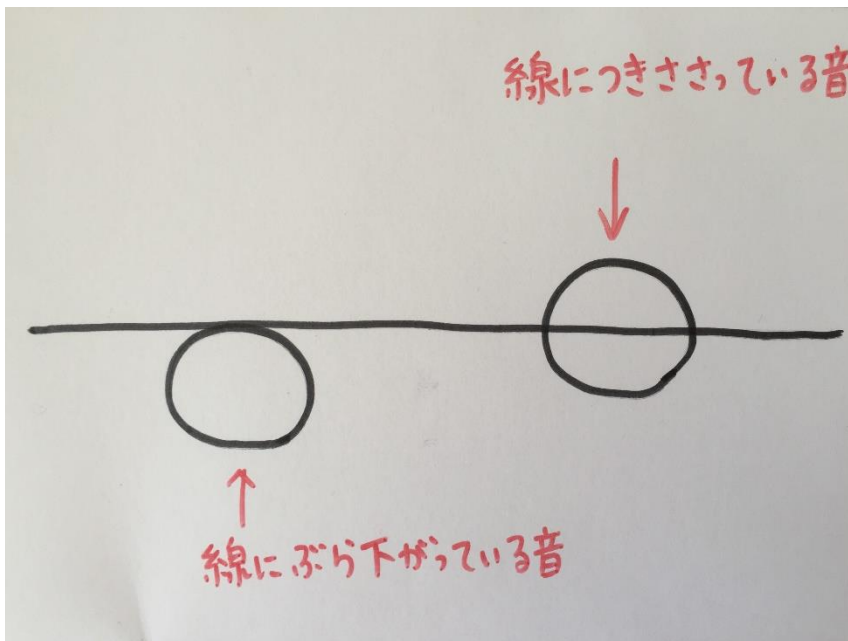
「ソの音は、2本目の線につきささっている音だよ」と言います。



* 指導のポイント *

音符の教え方は、前回の章と同じなのですが、

線にぶら下がっている音か、
線につきささっている音かの違いをしつこいぐらい伝えます。



教える音符は、あくまで教材に出てきたものに準じてやっていきます。

子どもへの声かけは、「ドレミファソはさっきテキストでやった音符なんだよ～」という風に、テキストと音符がリンクしていることを実感できるように教えていきましょう。

「ファ」と「ソ」の説明ができれば、次は、今までに覚えた音符をきちんと覚えているか音読みチェックをしていきます(^-^)

仕上げは「音符カード」でチェック！

子どもは新しく音を覚えると、どうしても前に覚えた音がおろそかになってしまいます。子どもは覚えるのも早いのですが、忘れるのも早いのです～（；^ω^）

なので、ちゃんと音を読めているかを確認するために、「音符カード」を使います♪

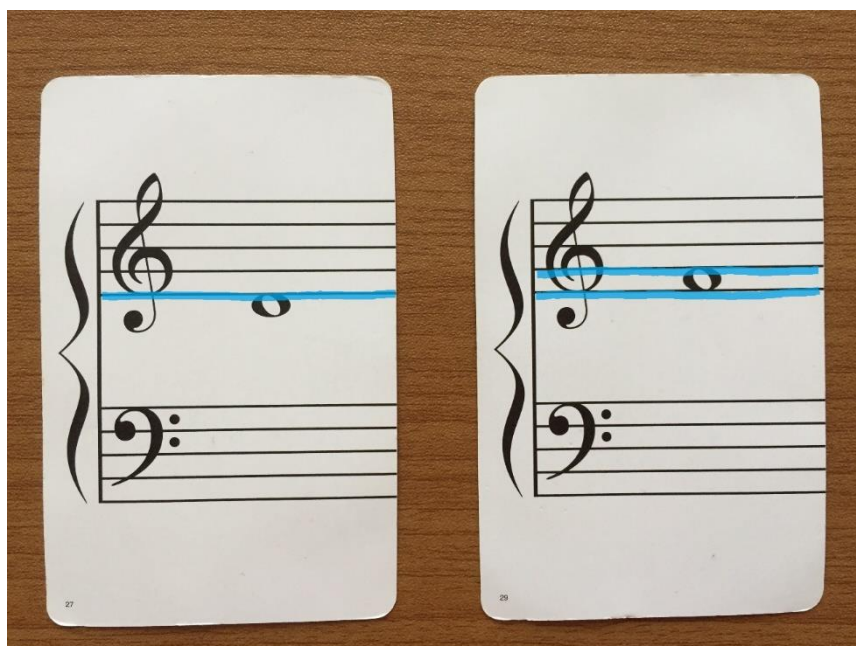
ポイントは、1音1音バラバラに読ませるということです。

前後の音の流れで音符を読んだりする子があるので、「これが「ミ」だから次の音はたぶん「ファ」だろう」とかそういうこと)、そういう子は、1音だけ見せられたら何の音かわからないんです。

「レ」と「ファ」の違い

●子どもへの説明の仕方

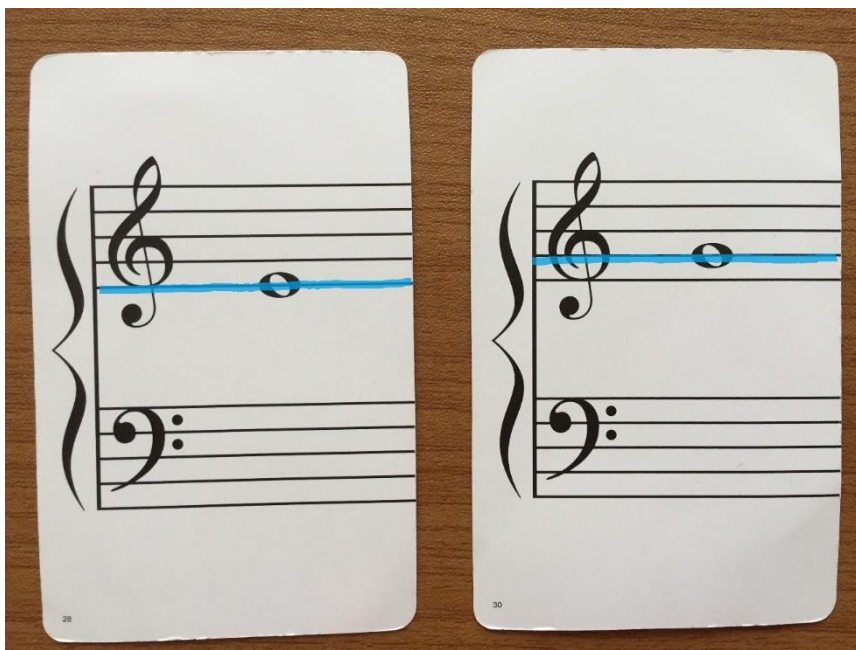
2つのカードを見せて、「どっちがファの音かな？」と言います。ファが何本目の線の間にあるかわかっていたら正解するはずです。



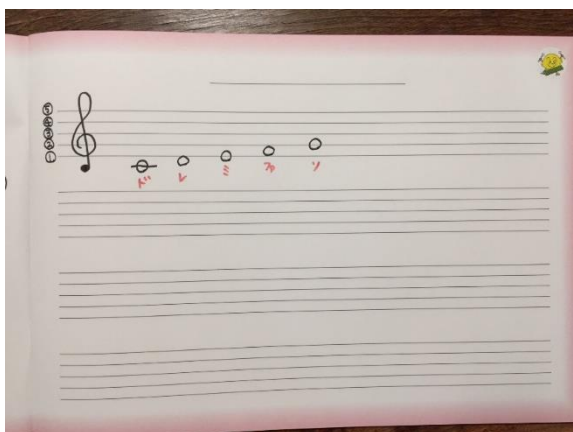
「ミ」と「ソ」の違い

●子どもへの説明の仕方

2つのカードを見せて、「どっちがソの音かな？ 何番目の線につきささっているかよく見てね」と言います。



この音符カード読みは、1カ月～2カ月ほどかけて、子どもがきっちり理解できるようになるまで、繰り返しやっていくことがポイントです。



このタイミングで、

今まで習った音符を音楽ノートに書いてあげましょう。

ちなみに音楽ノートは4段ぐらいが見やすいと思います。

これで2回目の音符の教え方は終わりです。

■ Part3 リズムのたたき方指導実践その②

レッスン2回目の最大のポイントは、拍数と全音符を教えることです。

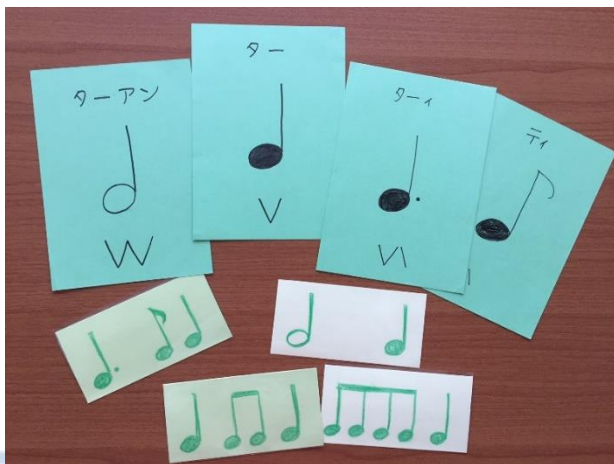
4分音符＝1拍、2分音符＝2拍、**全音符＝4拍**、8分音符＝半拍

では、「**リズムをたたく10分**」のレッスン内容を解説していきます。

必要な道具



- ・「音符のつみき」
(リトミック研究会に所属していたときに購入。非売品。これに似た音符のつみきはこちらです。)



- ・「リズムカード」
(色画用紙にペンで音符を書いたものです)

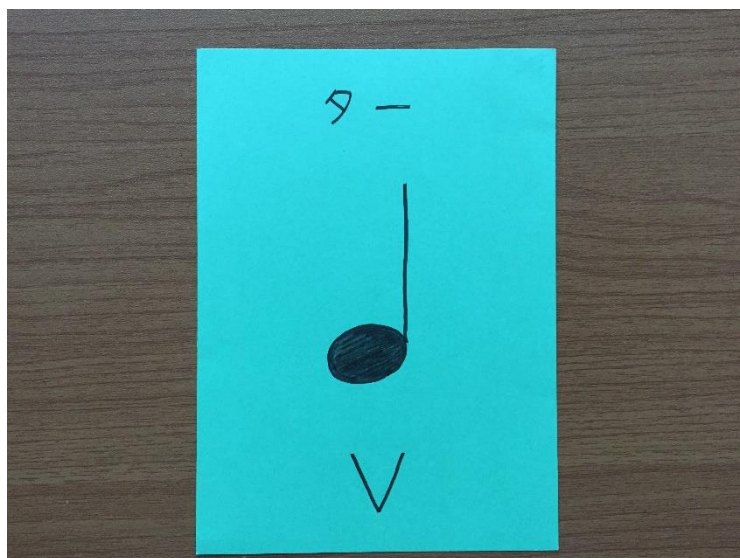
実際の進め方

4分音符の説明

※必ず4分音符から教えてあげてください

●子どもへの説明の仕方

・「今日は音符の長さについて覚えていこうね。この間のレッスンで4分音符はターってたくと言ったよね。ターは1拍の長さがあるの。だから4分音符=1拍と覚えてね」と言います。



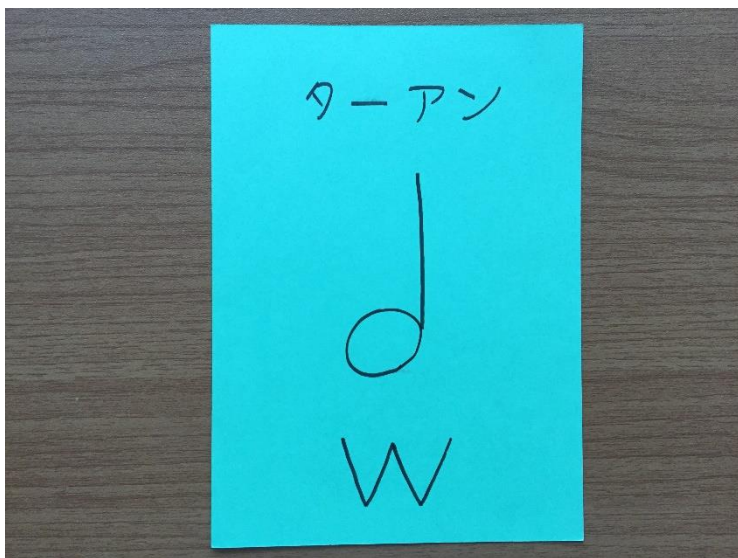
・「これが音符の積み木なんだけど、これが4分音符の長さね。よ〜く覚えてね。と言って、音符の積み木を見せて目でわかってもらいます。



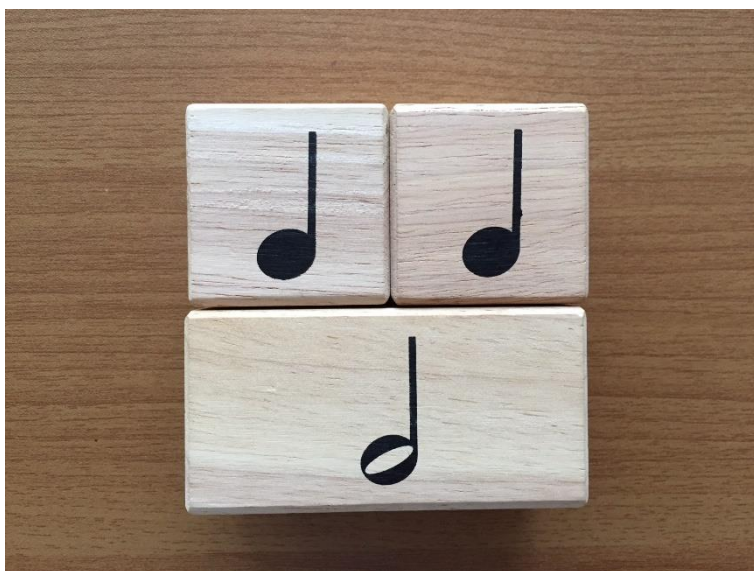
2分音符の説明

●子どもへの説明の仕方

・「じゃあ次は2分音符ね。2分音符は2拍あるんだよ。だから2分音符=2拍と覚えてね」と言います。



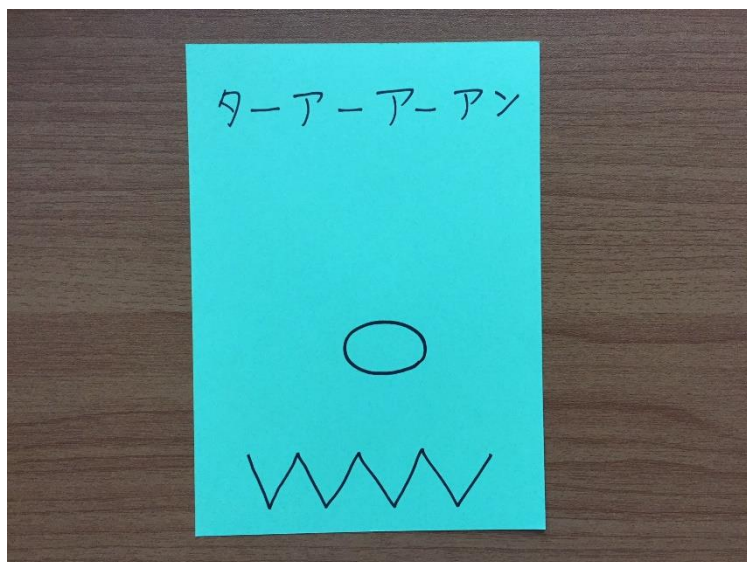
・「2分音符の積み木の上に4分音符がいくつ乗るかな？ 2つ乗るね。だから2分音符は2拍なんだよ」と言って、音符の積み木を見せて目でわかってもらいます。



全音符の説明

●子どもへの説明の仕方

・「次は全音符ね。さっきテキストで出てきた音符だけ覚えてるかな？ 全音符の長さは4拍もあるんだよ。全音符=4拍伸ばすと覚えてね」と言います。



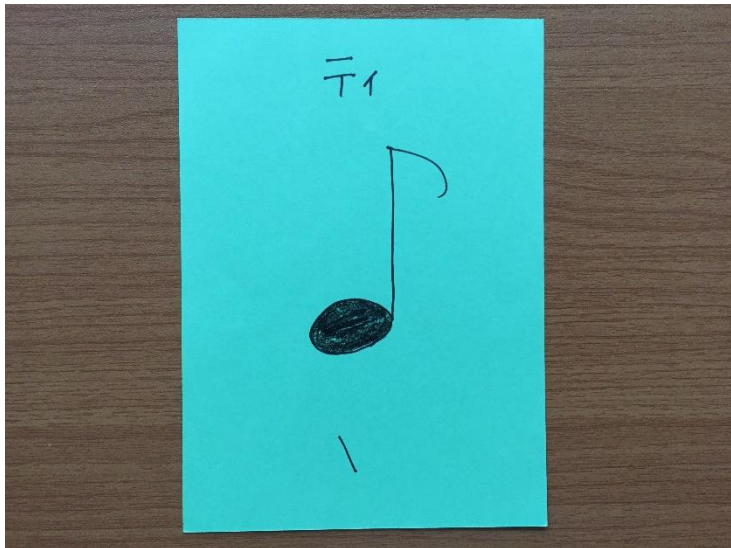
・「全音符の積み木の上には4分音符がいくつ乗るかな？ 4つも乗るね。だから全音符は4拍なんだよ」と言います。



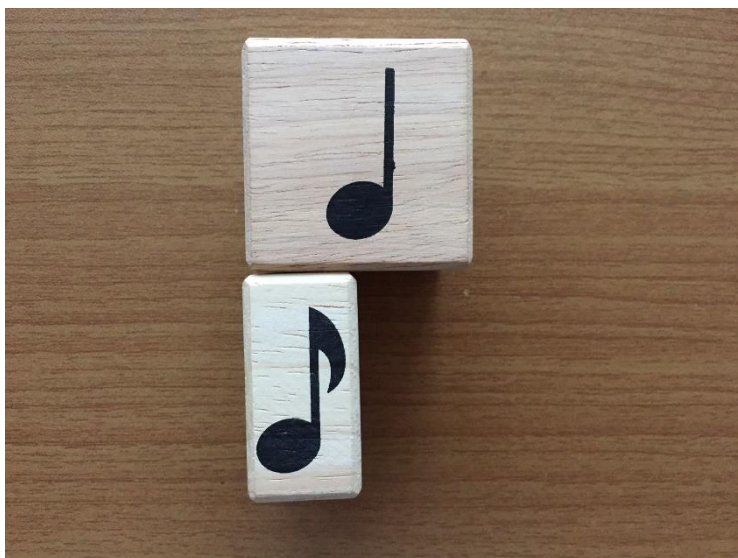
8分音符の説明

●子どもへの説明の仕方

・「次は8分音符ね。8分音符の長さは半拍しかないの。1拍の半分だから半拍というんだよ。8分音符＝半拍と覚えてね」と言います。

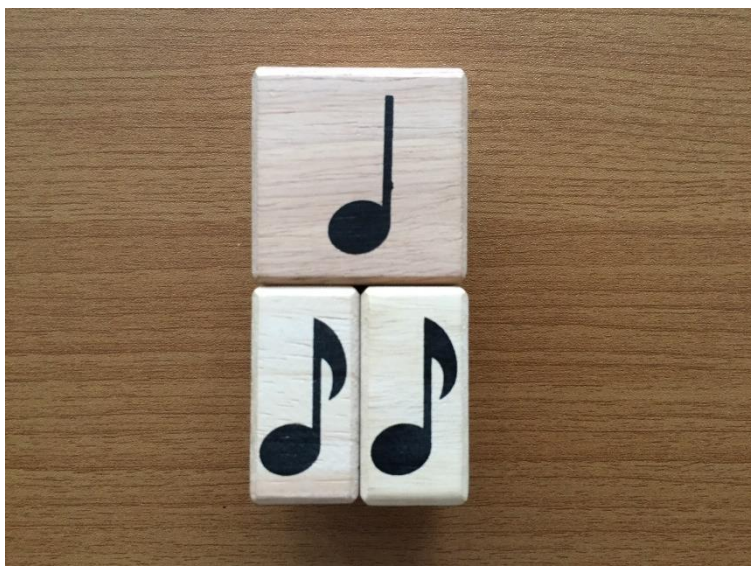


・「8分音符の積み木には、4分音符がいくつ乗るかな？あれっ？全部乗らないね。8分音符は4分音符よりも短い音だから乗らないんだよ」と言って、音符の積み木を見せて目でわかってもらいます。

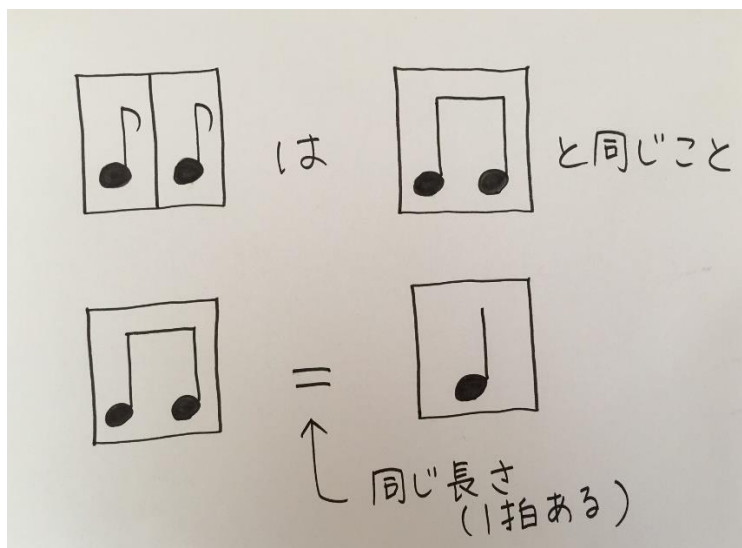


*** 指導のポイント ***

8分音符は(1個じゃなくて)2個で楽譜に出てくることがほとんどなので、8分音符は2個で1拍であることを目で見えて実感してもらいます。



図にするとこんな感じです。

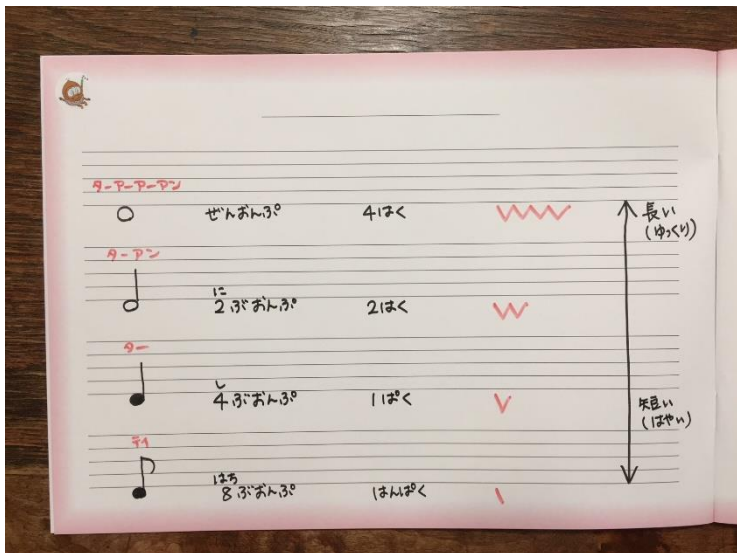


音の長さの説明のときは、音符の積み木を使うと、音符の長さが一目瞭然ですぐに理解してもらえます(^-^)

あとは、音符の長さの説明をするときは4分音符から教えること！

4分音符を基準として、4分音符より長い音なのか短い音なのかを説明していきましょう。

また今日教えたこと（下の図）を音楽ノートに書いてあげましょう。



参考動画

初心者さん用に撮った動画です。

※下記の動画をクリックすると YouTube に飛びます (6分程度)



これで2回目のリズムの教え方は以上です。

2回目のレッスンが終わりました～！あとは雑談したり、その日のレッスンを振り返ったりして子どもたちとコミュニケーションをとりましょう(^-^)

■おわりに

これで、第3章の「レッスン2回目の内容」は終わりです。

2回目のレッスンが終わりましたが、少しレッスンの感じがつかめてきたでしょうか？

まだまだ1つずつレッスンをこなしていくことで頭がいっぱいかもしれません。

ただ、子どもに教えるとき、**子どもの反応（特に目線）を気にしながら**進めることだけは忘れないでくださいね(^-^)

子どもの反応そっちのけで“ただただ必死に教えている先生”にならないように・・・(^-^;)（子どもにはそういうのって意外とバレちゃうんです）。

緊張は誰でもします。だけど自信を持ってレッスンをやっていってくださいね(*^^*)

この教材を読んで、イメージトレーニングをきちんとすれば、問題なくこなせると思いますので！

■規約

このレポートの利用に際しては、以下の条件を遵守してください。

このレポートに含まれる一切の内容に関する著作権は、レポート作成者に帰属し、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。

著作権法上、認められた場合を除き、著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を、複製、転載、販売、その他の二次利用行為を行うことを禁じます。

これに違反する行為を行った場合には、関係法令に基づき、民事、刑事を問わず法的責任を負うことがあります。

レポート作成者は、このレポートの内容の正確性、安全性、有用性等について、一切の保証を与えるものではありません。また、このレポートに含まれる情報及び内容の利用によって、直接・間接的に生じた損害について一切の責任を負わないものとします。

このレポートの使用に当たっては、以上にご同意いただいた上、ご自身の責任のもとご活用いただきますようお願いいたします。

◆作成者 スカラー

◆特定商取引法に基づく表記 <http://looplefte.shop-pro.jp/?mode=sk>